

短期海外研修の成果の活用状況

○令和元年度

テーマ	研修成果の活用
<p>外国人介護人材受入れ、地域包括ケア及び障害者スポーツに関する調査 (健康福祉部等、オランダ・ドイツ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの外国人介護人材確保の取り組みや考え方を参考に、本県で実施する外国人介護人材受入れ事業においても、外国人にとって居心地のいい環境づくりに留意し、介護人材として定着を図りたい。 ・オランダで学んだ問題解決の考え方を参考に、会議の場をより有意義な場とすることで、効率的な行政運営を図っていききたい。 ・障害の有無に関わらずインクルーシブな環境でスポーツに取り組めることや、スポーツに取り組む環境の選択肢が多くあることなど、ドイツで学んだことを活かし、障害のある人が県内のどこでもスポーツに取り組める環境の拡充を図っていく。 ・在宅医療の推進に必要な多職種連携について、ドイツでのSAPVの多職種間で無理なく連携できる仕組みづくりを参考にしながら医療機関等をサポートしていききたい。
<p>医師の診療科偏在及び地域偏在に関する調査 (健康福祉部等、イギリス・フランス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス、フランスにおける医師の診療科偏在・地域偏在に対する対応方法及び医療過疎地域での医療提供方法について共有していききたい。 ・フランスにおけるICTを活用した地域診療ネットワークの構築に関する取り組み等を参考とし、県立病院と地域診療所との連携を強化することで、紹介患者数の増を図りたい。
<p>湖沼等における外来水生植物の繁茂状況・管理的手法の調査 (環境生活部等、フランス・イギリス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外来水生植物の駆除については、地域・繁茂状況に即した駆除計画を策定し、順次進めている。 ・駆除した外来水生植物の処分は、関係市町の協力を得ながら進めている。 ・駆除と並行して、再繁茂を抑制するための効果的な方策などについて、関係市や市民団体等と協議していく。
<p>ドイツのIC周辺等における土地活用に係る広域調整等に関する調査 (県土整備部等、ドイツ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツでは都市計画分野での地方分権が進んでおり、地方を調整する機能を持つ広域都市計画である「Regional Plan」の役割が明確であった。今回の研修で得た知見を活かし、「千葉県都市づくりビジョン（令和5年6月策定済）」を策定し、IC周辺のまちづくり、外資系企業誘致施策に活かしていく。
<p>「未来の教室」に向けた教育の情報化について～EdTech、STEAM(S)教育、個別最適化学習等の先進活用事例調査～ (教育庁等、アメリカ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの先進的な活用事例を今後の環境整備に反映させ、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指すとともに、すべての子どもたちが学ぶ喜びを実感し、「学ぶことが楽しいおもしろい」と思える学校づくりの推進をしていく。

○平成30年度

テーマ	研修成果の活用
<p>国際協力のニーズ調査 (総合企画部等、ベトナム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国のニーズに基づき、県の有する資源を活用した国際協力を進めていきたい。 ・観光誘致面において、Win-Win となる関係を探っていきたい。
<p>公共交通を活用した地方における地域活性化施策について (総合企画部等、フランス・スイス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広域バス路線を含む地域公共交通の見直し等につながる市町村への支援制度を制定した。 ・市町村の地域公共交通会議などに参画し、公共交通施策等に対する助言を行っている。 ・先進的な交通モードの導入について、導入事例や技術開発の状況などを注視し、まちづくりとの連携などを検討する。
<p>先進国における危機管理体制とテロ対策の調査 (防災危機管理部、イギリス・フランス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テロが頻発している国における対処方針・方法について警察、消防、自衛隊等の関係機関と共有した。 ・研修結果を国民保護訓練に反映し、万が一テロが発生してしまった際に、迅速な救助、搬送、治療を行い、負傷者の救命率向上に努める。
<p>サーフィン先進国における大規模大会の運営実態調査及び観光施策・地域活性化の可能性について (環境生活部等、オーストラリア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチを活かした地域活性化に資するよう、市町村に対して情報提供を行った。 ・オリンピックでのサーフィン競技県内開催を踏まえ、スポーツとしての普及だけでなく、地域の活性化にもつながるよう、サーフィン体験と地域の魅力を組み合わせたモデルルートの作成・公開や、サーフィン体験会とサーフ文化を体感する発信イベントを実施している。 ・オーストラリアを含む各国に対して、多言語（英語、中国語（繁体字））のウェブサイトや各種SNS（フェイスブック、インスタグラム）において、千葉県の観光情報を発信している。掲載記事作成にあたっては、ネイティブライター等を起用するなど、外国人視点の内容となるよう配慮している。 ・令和元年度～令和2年度は、県内観光施設・宿泊施設のバリアフリー情報を発信するため、車いす利用者も現地調査員に加え、千葉県公式観光物産サイト上に「千葉県バリアフリー観光案内」を作成した。その後、適宜更新を行い、情報の正確性を維持できるよう努めている。

テーマ	研修成果の活用
<p>スマート農業をリードするオランダの先進的な施設野菜生産技術の実態調査 (農林水産部、オランダ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部内の報告会や農林総合研究センター試験研究発表会で研修報告を行い、部局、研究機関、出先機関との情報共有を図った。 ・ 「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業（園芸施設スマート農業推進型）により環境モニタリング装置、炭酸ガス施用機及び濃度測定装置、循環扇の導入支援を行っている。 ・ 「スマート農業導入実証事業」、「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」により、水田や果樹、露地野菜等でのスマート農業技術の実証を行っている。 ・ また、指導者向け研修会の開催や各地域で生産者による学習活動を支援している。
<p>海外における先進的な浄水処理技術の調査 (水道局、フランス・ドイツ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業体自ら先進的な浄水処理技術に係る調査・研究を行うなど、今回調査したフランス及びドイツの取組を参考に、今後の当局の将来の施設整備や新たな浄水処理方法等の検討に役立てていく。 ・ 研修成果について、令和元年11月に函館で開催された（公社）日本水道協会主催の水道研究発表会において発表し、他事業体との情報共有を図った。